

た。当組合としても「白神ねぎ」10億円販売達成プロジェクトを立ち上げ、各種販促活動や、園芸メ

が団地事業への取組など試行錯誤しながら取り組んでまいりました。この結果につきましては、行政・関係機関のご支援はもとより、ねぎ部会長を先頭に部会員1人1人の努力の積み重ねが、市場・卸先に高く評価された賜と深く感謝の意を表します。本年は市場関係者、他産地からも「ねぎの10億円産地」として注目されることとなります。この「10億円産地」というネームバリューを有利販売に繋げるようより精進してまいりますとともに、ねぎ農家の皆様におかれましては、更なる産地としての飛躍を目指しご奮闘頂きますようお願い申し上げます。

また、昨年10月には新たに「白神きやべつ」、「白神みょうが」の名称が商標登録され、当JAでは4品目が地域ブランドとして登録されました。今回の取得により、更なる産地拡大を図ってまいります。一方、今後収穫最盛期を迎える冬季作物の山うどやアスパラガスの生育は順調に進んでおり、出荷

に向けて大きな期待を寄せているところ です。

花卉については、昨年3月に「りんどう部会」が設立され、藤里町につづいて能代市でもりんどう栽培が始まりました。現在4.0ha、12名の部会員で栽培されており、年々着実に面積を伸ばしており、販売額も昨年度を上回る2,553万円となりました。今後「白神りんどう」のさらなる特産化に向けてさらに力を入れてまいります。

平成27年の第138回種苗交換会は鹿角市で開催され、当管内からは、ねぎ、りんどう、キャベツなどが農林水産大臣賞、県知事賞をはじめ、24点が受賞するなど、天候に大きく左右される厳しい栽培環境の中にあっても、品質は高い水準にあることが認められました。市場関係者からも白神産農産物への信頼が大きく、安定供給に向けた生産拡大が求められております。今後も安全・安心な農畜産物の生産拡大を図り、消費者に選ばれたる商品作りを心がけ、農家所得の向上に繋げていきたいと考えています。

また、昨年11月に第29回秋田県JA大会が「JAの総合力発揮」をメインテーマで開催されました。

農協法改正やTTPの大筋合意など、厳しい農業情勢が続く中、組合員が必要とする事業展開をさらに強化し、JAの総合力を発揮しながら自己改革を実践してまいります。将来にわたり、組合員・地域社会の多様なニーズに対応するためにも、強固で盤石なJA財務基盤を確立するとともに、組合員の大幅な減少や高齢化が進む中、新たな組織再編の実現を目指し、地域のJA合併に向けた協議をすすめてまいります。

新たな年のスタートにあたり、TTPをはじめ、解決されない課題が山積みの厳しい状況ではありますが、『農業者の所得増大』、『農業生産の拡大』、『地域の活性化』を目指し、また組合員が組合員であることに喜びを感じられるよう、役職員一同全力で取り組んでまいります。

本年も皆様の変わらぬご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさつと致します。

理

事

桂田 忠雄

理

事

佐々木 博子

理

事

池端 秀巳

理

事

戸松 義盛

理

事

斉藤 幸蔵

代表
監事

渡邊 博

常勤
監事

桂田 和弘

監

事

市川 讓

監

事

清水 英夫

員外
監事

大山 澄子

本誌をもって、年始のご挨拶とさせていただきます。

